経営改革・企業活力向上を支援

佐賀経営者 10

2021　No.979

歴史と伝統ある教育県佐賀の地より、さらなる未来へと歩み続ける(学)旭学園

CONTENTS

○経営を語るVol.275 …… 2
愛をもって地域の宝を育てる
(学)旭学園
理事長　内　田　信　子　さん

○カーボンニュートラル実現に向けて～産業政策の視点～ … 6
佐賀県産業労働部
新エネルギー産業課　課長　大野伸寛

○各社往来・協会消息(9月) …… 14

経営を語る Vol. 275

愛をもって地域の宝を育てる

（学）旭学園

理事長　**内　田　信　子** さん

●先のオリンピックでは貴学園ゆかりの選手が大活躍されましたね●

本学の卒業生であるソフトボールの藤田　倭、内藤実穂、自転車競技の小林優香の各選手に熱い声援をいただき有難うございました。ソフトボールは見事、金メダルを獲得し、投打に活躍した藤田選手はＭＶＰに、内藤選手もベストディフェンス賞に選ばれました。両選手は記者会見で佐賀女子高校の名前を幾度も挙げ、故久保田昭監督の下で過ごした日々への感謝を口にしました。

小林選手はもともとバレーボール選手を目指していましたが、実業団ではなく、佐賀女子短期大学で競技を続けていました。「競輪」と出会い、学業を中断して競輪学校へ進みましたが、彼女の決断とご支援下さった皆様、その後の本人の努力に敬意を表します。

●貴学園の沿革、運営状況等を教えて下さい●

当学園は今から124年前、明治30年に中島ヤス先生が創立した学校で、「順和」「礼譲」「敬愛」「奉仕」を学園訓としてきました。

現在は佐賀市で「佐賀女子短期大学」、「佐賀女子高等学校」、「ふたばこども園」を、多久市で「ひしのみこども園」を運営していますが、これまでに約６万人の卒業生を送りだしています。以前は高等学校多久校舎・高等学校武雄校舎を有していました。

企業の沿革

会社名	学校法人旭学園
住所	佐賀市本庄町大字本庄 1313 番地
設立	1897 年
職員数	348 名
事業内容	短期大学、高等学校、幼保連携型認定こども園

現在の運営状況ですが、少子化や短期大学への進学率が減少する中、私が理事長を拝命しました2018年の1,630人以降、増加を続けており、佐賀女子短期大学は文部科学省が一定の基準とする収容定員８割を超え、佐賀女子高校は３年連続佐賀県下１位の入学生徒数で在籍者数は1,000人を上回っています。これに、佐賀市と多久市で運営するふたばこども園、ひしのみこども園を加え今年度は1,753人が在籍しています。在籍者の増加は、ひとえに教職員の努力によって学園としての魅力が理解されたお陰と感謝しています。

資金収支面では決算上黒字が続いており、運営資金面では不安はない状態ですが、民間企業の損益計算書にあたる事業活動収支計算書でみると減

価償却費が大きく影響し、経常収支差額の赤字が続いています。これを黒字化することが課題で、黒字化に向けた対応などを含む旭学園の事業５か年中期計画を策定し、今年度スタートしました。

支出の最大の項目は人件費ですが、単に人員等の削減による人件費削減ではなく、雇用効果の最大化を図る必要があると認識しています。また、短期大学の経常費補助金も大きく減額されており、定員充足率をさらに向上させ、国からの補助金額の減額率を少なくする必要があります。

短期大学では学生募集や補助金獲得に教職員全員が努力しています。また、経営的な視点からこの３年間でＩＴ関連コースの新設、栄養士養成コースの募集停止などを行いました。特に栄養士コースの廃止は苦渋の決断でしたが、ニーズはあるものの、保育士や介護福祉士にある国からの人件費補助措置がないため栄養士の賃金が低いことや、高校に調理師免許が取得できるコースがあることから、募集停止に踏み切りました。

また、最近は教員のなり手不足が顕著で、2021年度、佐賀県の小学校教員採用倍率は1.4倍と過去最低でした。こうした小学校教諭不足を補うため、短大には小学校教諭２種免許を取得できるコースがあることから、全国で初めて、短大として佐賀県教育委員会と連携し、小学校の現役教頭を短大の准教授に招聘し、講義をしてもらっています。毎年、佐賀、福岡、長崎などの教員採用試験に現役の合格者を出しています。

加えて、養護教諭は小中高校に配置義務がありますが、こども園などでも医療の知識を持つ保育士のニーズが高まっていることに対応し、来年度の入学者から保育士資格、幼稚園教諭免許に加えて養護教諭の免許を合わせた３つの資格・免許が取得可能なコースを文部科学省に申請中です。

こうした取り組みは「子どもたちの夢を応援する」、「地域の要請に応える、地域と共に」という本学の一貫した理念に合致したものです。

●理事長に就任され３年半ほど経ちましたが、ご感想をお聞かせ下さい●

私は民放テレビ局でアナウンサー、報道記者、広報を経験しました。その後、管理職になりましたが、仕事の傍ら、佐賀錦の研究や女性の活動支援のボランティアをしていました。

吉野ヶ里遺跡担当記者をした頃から親交のある高島忠平元理事長から「女性が通う学園の理事に女性がいないのはおかしい」と依頼され、当学園の非常勤理事になりました。４年前に、理事長になってほしいと突然言われたのですが、固辞し続けました。と言うのも夫が会社を経営しており、30年間、経営することの厳しさ、孤独、人を率いるということの難しさなどを身近で見てきましたから、とても私には出来ないと思ったからです。また、依頼を受けた当時、入学者数が最低で、経営に暗雲が垂れ込めていたことも理由でした。

しかし、最終的には「天命」だと思い、お受けしました。承諾を決めたのは「故郷佐賀のお役に立てるなら」という理由です。人口減少が進む中、出来るだけ多くの学生、生徒に佐賀で就職してもらい、産み育ててもらえればと思ったからです。小さな学校ですが、なくなると地域にとって大きなダメージになります。

引き受けたからには、良い教育の場となるために全力を尽くすと決意しました。ただ私は教育も